

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105016
法人名	社会福祉法人 道真会
事業所名	グループホーム はぶやま
所在地	松山市高岡町779番地6
自己評価作成日	平成21年12月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年1月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>管理栄養士による献立で、栄養管理ができています。</p> <p>団地内にあり、山を背にして、季節の変化を体感できる静かな環境にある。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は、年2回外部研修を受講することになっており、「ハンド・マッサージ」を研修時習った職員は、事業所でも実践され、利用者にたいへん喜ばれたようである。</p> <p>年2回発行の「はぶやまだより」で事業所の行事や日々の生活の様子を写真入りで紹介し、職員の名前等もご家族に知らせておられる。ご家族の来訪時やお電話で日々の様子を伝えて、ご意見をうかがうようにされている。遠方のご家族にお手紙を出したり、心配されていることについて報告するよう努めておられる。家族会を年に一回開催されており、ご家族からは、「利用者ご本人と散歩をしていると地域の方があいさつをしてくださるのがうれしい」という感想をいただいた。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム はぶやま

(ユニット名) 星

記入者(管理者)  
氏名 江頭 喜代美

評価完了日 平成21年 12月 12日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホールや事務所に掲示しており、朝の申し送り時の斉唱をはじめ、一人一人が、いつも念頭に置いている。実践するための現実との葛藤もあるが、日々前向きに取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所開設時に「いつも笑顔・やさしさ・おもいやり」と理念を作成されており、日々のケアの中で実践に取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区自治体の盆踊りや、公園掃除に参加している。職員と一緒に周辺を散歩したり、近所のスーパーへ買い物に行き、途中近所の人と出会うと気軽に挨拶しているが、利用者の中には会話が困難な人が多いため、交流を図ることが難しいときもある。	
			(外部評価) 事業所は団地の自治会に加入し、回覧板も回ってくるようになっている。自治会長の方から団地の盆踊り大会へ誘っていただき、皆で出かけて地域の方たちとともに楽しまれた。年に数回、歌手や楽器演奏をしてくださるボランティアの方の訪問があり、利用者に懐かしい歌を聞かせてくださったり、一緒に歌ったりと楽しいひと時を過ごされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に「はぶやま便り」を発行し配布している。地域の方に、行事に参加をお願いし、日常の見学してもらっている。運営推進会議などで、情報交換を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      2ヶ月に一度開催、近況報告から、その時の議題等、地域住民・利用者の家族・行政・事業者が集う場として意見交換をしている。時には、家族会行事と合同で行い、日々の様子を見てもらうこともある。内容は議事録で残し、職員間でも必ず確認している。</p> <p>(外部評価)                      会議では、前回の会議の概要を説明してから始めるようにされており、事業所の活動や現況報告を行い、意見交換を行っておられる。ボランティアの方のコンサートの後に会議を開催されたこともある。防災がテーマの会議には利用者2名が参加して、戦争当時ご苦労されたことを聞かせてくださった。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      運営推進会議や、利用者の認定調査をはじめ、管理者より連絡・連携を密に取っている。</p> <p>(外部評価)                      市の担当者に介護保険のことや、生活保護受給者の生活について相談しながら、運営に取り組んでおられる。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      研修やマニュアルで各職員は理解できている。基本的に、身体拘束はしていないが、やむをえない時は、家族に十分に説明・了承を得ている。一部の利用者の中に、状態により何度も黙って出て行く時があり、事故防止のため各階玄関は場合により施錠している。</p> <p>(外部評価)                      入居間もない利用者が落ち着かれず、外に出られる方もあるようで、現在、ユニット出入口に鍵をかけているユニットがあった。</p>	<p>利用者の状態や職員の人員等、むつかしい面もあるだろうが、事業所の理念に基づき、ご本人の思い等も大切にして、安全と安心について職員で話し合い、鍵をかけずに支援できるような支援を模索していかれてほしい。</p>

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 直接学ぶ機会はないが、ワーカー会などで意見・情報交換をし、より良い介護を提供できるよう職務内容の見直しをしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ワーカー会で学び話し合う機会をつくっている。成年後見制度については、実際に利用者に活用されており、直接の対応は管理者が行っているが、その内容・いくみ等は、職員にも理解できるよう報告がある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ケアマネジャー・管理者・利用者・家族で出来る限り可能な範囲で面談をし、十分に話し合っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各フロア入口に、意見箱を設置しているが、思うようには活用されていない。 日頃から、利用者と話す機会をつくり、家族来荘時には、要望等、気軽に言えるような関係作りに努めている。 また家族会で家族同士の意見・情報交換をしている。 (外部評価) 年2回発行の「はぶやまだより」で事業所の行事や日々の生活の様子を写真入りで紹介し、職員の名前等もご家族に知らせておられる。ご家族の来訪時やお電話で日々の様子を伝えて、ご意見をうかがうようにされている。遠方のご家族にお手紙を出したり、心配されていることについて報告するよう努めておられる。家族会を年に一回開催されており、ご家族からは、「利用者ご本人と散歩をしていると地域の方があいさつをしてくださるのがうれしい」という感想をいただいた。	管理者は、ご家族から、事業所のサービスについてのご意見等をうかがいたいと考えておられる。たとえば、外出支援等、事業所のケアサービスについて具体的に問いかける等、ご家族が意見や希望等を出しやすくなるように工夫してみてもどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>日頃より、どんな小さな事でも報告・連絡・相談を密に取っている。 月に一度、ワーカー会議を実施し、職員間で話し合う機会を持ち反映させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、年2回外部研修を受講することになっており、「ハンド・マッサージ」を研修時習った職員は、事業所でも実践され、利用者にたいへん喜ばれたようである。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>年2回個々で記入(自分で自分を評価する)チャレンジカードを作成している。 毎年昇給もあり、有休も希望に応じてとり入れている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>職員のスキルアップには積極的に取り組み、研修予定表を貼りだし、希望者は参加受講できるようにしている。 勤務の一つとして受ける事もあり、技術向上になっている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者同士の会合や、交流会・外部研修等に積極的に参加をし、そこでの意見交換や実習を通じて、サービス向上につなげている。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>調査表に目を通し、過去の本人の生活の様子・状態など把握している。 声かけを多くし、行動を見ながら安心して過ごせるよう努め、職員間で連絡を密にとり、本人の要望に素早く応えられるようにしている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所時に、まず管理者と家族が話し合う機会を持ち、安心できるようにしている。 面会時、気づいた事を報告したり、家族にも要望があるか等を尋ね、お互いに解決に向けた話し合いを多く持っている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族・本人からの聞き取りや、本人の特徴・状態をよく理解しておき、日常時の観察を密にし、何が必要なのかを見極め、支援につなげている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人一人の日々の生活ぶりを常に確認し、意思を尊重しながら、喜怒哀楽を共にし、学びながら感謝の気持ちを忘れないように接している。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>行事がある時は、一緒に参加してもらったり、積極的に家族の方とのかかわりを多くして頂くよう働きかける等、無理のない範囲でお願いしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会時には、本人との大切なひと時をゆっくりと過ごしてもらっている。家族の方と自宅に帰ったり、スーパーへ外出している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、ご家族の来訪があり、ご家族とゆっくり過ごせるよう、職員は、食事を居室に運んでおられた。ご家族と外食やお墓参りに行かれる利用者もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21			(自己評価) ホールには、大きなソファが置いてあり、個々の好きな時間に一緒に過ごせるようにしている。レクリエーション等に誘い、お互いに話せる共通の話題を提供し、和む場が多くあるようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組みサービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人・家族の意向を大切にしながら、必要に応じて、相談や支援に努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で、本人との会話やふれあいを多くし、その中から希望や意向等、具体的な事を聞き取り、実現に向けて出来る事から支援している。意思疎通の困難な人は、表情や動作から気持ちを組み取るよう心がけている。	
			(外部評価) 職員は、利用者との日々のかかわりの中で知り得た思いや意向等を記録した「申し送りノート」や、月一回の「ワーカー会議」時のご本人の情報を共有し、介護計画につなげるようにされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 調査表の把握、本人と家族からの話や、前施設の情報等、一つでも多くの情報を共有するよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の様子をこまめに観察し、生活記録に状態を残している。気が付いた事なども記録し、状態を把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 3ヶ月に一度、介護の見直し・計画を作成する時、本人や家族の要望を入れ、本人に応じたケアをしている。 状態変化のあった時は、その都度新しく見直しをしている。</p> <p>(外部評価) ご家族の要望やご本人の希望等も踏まえて介護計画を作成しておられ、支援内容を毎日、事業所独自の「評価表」でチェックし、3ヶ月に一回計画を見直しておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別に毎日ケアプランに対し評価をしている。 生活記録や日誌は、できるだけ細かく記入しており、職員間で情報を共有している。 問題点等は意見交換し、見直しや実践に活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の話を聞き、色々な工夫をしながら職員間でよく話し合い、出来る限り希望にそえられる対応ができるよう支援している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 何がしたいか何ができるかを見極め、草引き・畑仕事・掃除等、楽しみながら一緒に出来る事を提案している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の月に2回の訪問診療を始め、体調不良 や、不安事項のある時は、随時受診できる体制ができて いる。 他、状況に応じて、本人・家族の希望により、入所前 からのなじみの病院で受診もしている。	
			(外部評価) 入居時、ご本人やご家族の希望を聞き取り、現在は全 利用者が母体医院がかかりつけ医になっており、24時 間いつでも対応してくれるようになっている。眼科や 皮膚科等の専門医は、入居前からのかかりつけ医にご 家族と受診されており、その際には、症状等、事業所 での様子をメモにして渡されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 急な発熱や体調の変化が見られた時は、その都度、主 治医や看護師に電話をして聞いたり、訪問診療の際、 相談・支持を仰いでいる。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 日頃より利用者の健康状態は、よく観察し報告してい る。 入院を必要とした場合、それに至るまでの状況等の情 報を提供すると共に、主治医や看護師と密に連絡を取 り合っている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 可能ならば、本人と家族・医師・管理者が十分に話し 合い、本人・家族の意向を尊重しながら、施設の決 まった方針の中で、できるだけ希望に応えられるよう 全力で取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所では入居時に、希望があれば看取り支援も行え ることをお話されている。 管理者は、今後利用者やご家族から看取り支援の希望 等があれば、支援していきたいと考えておられる。ご 本人の意向やご家族の希望、又、事業所の方針等も共 有しながら、早い段階から話し合う機会を作ってい かれてほしい。さらに、職員が勉強する機会等、事業所 の体制作りに向けても取り組みをすすめていかれてほ しい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成している。 他、個々で学んでいる。ワーカー会での話し合いは定期的に行っているが、実践となると慌ててしまい冷静に対応できない時もある。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 施設内でも年2回防火訓練をしており、昼夜間両方の対応の仕方を身につけている。 地域の防災訓練にも参加を予定しており、日頃から相互間の協力体制の話し合いをお願いしている。 (外部評価) 事業所が所在する団地内には災害時の緊急連絡網があり、いざという時には防災士等も駆けつけてくれるようになっている。避難訓練の際に、消防署からは「隣近所の協力が一番大事です」とのアドバイスをいただいたり、布団を使って利用者を救出する方法等を教えていただいた。事業所を緊急時の地区の避難場所として提供できることを自治会に伝えておられる。地区の防災訓練に職員数名が参加された。	山が近くにあり、山崩れや水害等の危険もあることを地区の方に教えてもらっている。いろいろな場面を想定した訓練を重ね、又、地域の方達との相互協力体制作り等もさらにすすめ、利用者や職員の安全・安心に向けて取り組んでいかれてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であるという尊敬の念を持ち、優しく丁寧な言葉かけや対応を、常に心掛けるようにしているが、忙しい時は、つい言葉が雑になってしまう時もある。 (外部評価) 職員は、やさしい言葉と笑顔で利用者に接しておられた。管理者は、夜間等「ナースコール対応は迅速に行う」ことの大切さを話しておられる。又、職員は、利用者に「楽しく過ごして欲しい」との思いから、「1日のうちで利用者一人ひとり1対1で話す」ことや「レクリエーションに力を入れたい」と話しておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) まず利用者の声を聞くように心がけている。 その会話の中で、本人の思い等を探るようにしている。 意思疎通の困難な人は、表情や仕草から気持ちをくみ取るようにしているが、職員側で決定する事が多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは、大まかに決まっているが、その中で、体調に合わせて個々のペースですごしている。すべて、希望通りにはいかないが、できるだけ自己決定を尊重し、希望に添えるよう手助けをしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で鏡を見てもらうことから始め、可能な人は自分で服を選んでもらっている。季節や天気・好み等を配慮しながら助言する事もある。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ホールにメニュー表を貼りだし、毎回楽しみにして頂くと共に、利用者にも簡単な食材の下ごしらえや、お手伝い・料理法など話しながら、準備している。介助を必要とする利用者が多いため職員は一緒には食事はしていない。	「食事をたのしむことのできる支援」という点から、現在の事業所の食事支援について工夫や配慮できる点はないか話し合われてみてはどうだろうか。グループホームの有用性等も踏まえて食事支援の意義等について、職員で話し合ってみる機会にされてはどうだろうか。
			(外部評価) 毎日の食材は業者から届くようになっており、職員が調理されている。調査訪問時、12時になったらテレビを消して食事の時間となり、職員は利用者の中に入り、「おいしいですか」と声をかけながら、食器を手元に寄せる等、ご本人が食べやすいように介助をされていた。職員個々がお弁当を持参されており、介助後に食事をとっておられたり、又、食事時間が休憩となっている職員もあった。利用者からの「お寿司」「刺身」等のリクエストは、栄養士に伝えて、メニューに採り入れるようになっている。月一回の誕生日会には、職員の手作りケーキでお祝いをされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士がメニュー作成し栄養バランスは取れている。個々に合わせて量を変えたり、キザミやミキサー食など食べやすいような食事になっている。水分・食事摂取量記載表を作成しており、必要な量は、確保できるよう支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず口腔ケアをしている。自分で出来る方には声かけをし、出来ない方には見守り介助をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的に排泄誘導したり、本人の動きに気を配り、サインを見逃さず声かけをしている。チェック表を利用し、パターンが分かればオムツから布パンツに変更してみたりと、自立に向けて支援している。 (外部評価) 日中はトイレで排泄ができるよう、声かけや誘導をされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂って頂くよう配慮する。散歩で身体を動かしたり、おやつも工夫している。排便チェック表を作成しており、毎日有無が分かるようにしている。便秘が続く場合は、主治医のもと、下剤を服用もある。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夏は週3回、冬は週2回と、ほぼ曜日と時間帯は決まっているが、本人の体調や気分によっては、曜日や時間をずらしている。入浴中はリラクセスできるよう、雑談等しながら、ゆっくり入ってもらっている。 (外部評価) 「浴槽をまたぐことがむづかしいような利用者」は、1階のリフト浴を利用して、湯船で温まれるように支援されている。季節によって柚子湯や菖蒲湯を楽しまれたり、入浴を嫌がられる利用者には声をかけるタイミングを工夫し、支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は、本人の意志を尊重している。眠れない時などは、せかさずゆっくりと話し相手になっている。室内温度や、明るさ等、注意し安眠できるよう気をつけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ノートを作成、また一人一人の薬手帳があり、服用している。薬の名や用法・成分等一目で分かるようになっている。薬は、一つの所にまとめて保管しており、在庫も把握している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 簡単なお手伝い等、毎日してくれる方もいる。歌を歌ったり・ゲーム・散歩やおしゃべり等、一人一人にあった楽しみを、生活の中から、職員から見つけ、提供・支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望には添えないこともある。日曜日のドライブや買物等は、日頃の希望を聞いておき出掛けている。家族との外出は、面会時にあり楽しまれている。天気の良い日には、少人数ずつ近隣へ散歩に行っている。	
			(外部評価) 春はお花見ドライブ、秋には畑でサツマイモの収穫を楽しまれた。近くに公園があり、暖かい季節には散歩に出かけておられる。日曜日は「車に乗って出かける日」になっており、少人数ずつ利用者の希望に沿って、マーケットや飛行場等に出かけておられる。外出の前には、トイレ等、利用者が使用できるか確認をされている。	さらに、利用者の行きたい所や懐かしい場所等を探り、訪ねてみるような支援にも取り組んでみてはどうだろうか。ご家族等にも相談しながら、取り組みをすすめてもらってほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 可能ならば買い物時自分で清算したりと、お金を自分で所持している人もいる。管理が困難な人は、本人と相談しながら職員側で対応している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 文字を書く事ができる人が少ないため、利用者が手紙を出す事は少ないが「はぶやま便り」などで近況報告をしている。携帯電話を持っている人もおり、自由に電話で話しておられる。施設からは、職員が対応し本人に変わり話をされる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>テーブルやソファの配置換えをしたり、季節に応じたカレンダーや生花を飾っている。各共有の空間には、わかりやすいように手作りの札をつけている。ホールからは職員が台所で料理をしている風景も見え楽しみにされている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者と職員で、毎月大きな数字のカレンダーを作って飾られている。壁際の椅子がお気に入りの場所になっている男性利用者も見られた。1階のデイサービス跡に、ピアノがあり、時々演奏会等を行ってられる。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホールには、大きなソファが置いてあり、みんなが集まって話をしたり、テレビを見たり、思い思いに楽しくゆったりと過ごしている。南側の大きなガラス窓あたりでは、食卓があり、ゆっくりのんびりと日なたぼっこ等出来る場所もある。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人が使い慣れた寝具や家具、中には仏壇を置かれ、気持ちのより所としている人もいる。配置にも、本人・家族の希望も取り入れ、過ごしやすいよう工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前から畳で過ごすことに馴染んでおられる方や、こたつを好まれる方には、お部屋に畳を敷いておられた。誕生日に贈られた「おばあちゃん、おめでとう」のメッセージとともにひ孫さんの写真を飾っておられる方もある。夜間眠るまでの間、テレビを見られる方もある。各居室には洗面台があり、歯磨きをされる方もある。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>ポータブルトイレを置いたり、車椅子自力駆動や、歩行に障害となる物は床に置かないよう、安全かつ自立した生活づくりに気を配っている。</p>	